

観  
世  
流

# 緑泉会

Kanzeryu Nob-Theatre



Ryokusenkai

平成29年 第3回例会

**9.17** [日] PM 1:00 ~ (開場 12:00)

喜多六平太記念能楽堂

【橋辨慶】シテ：坂 真次郎 (撮影：吉越スタジオ)

能  
龍田  
Tatsuta  
新井麻衣子

能  
狂言  
貫智  
Morimichi  
野村 万作

能  
橋辨慶  
Hatsubenkei  
桑田 貴志



【龍田】シテ：坂 真次郎 (撮影：吉越スタジオ)

能  
牛若丸 桑田潤之介  
辨慶ノ從者 河井 美紀  
武藏坊辨慶 桑田 貴志

辨慶ノ家来 野村太一郎

大鼓 國川 純  
小鼓 古賀 裕己 笛 一噌 隆之

後見 墨 敬子

地謡 藤村 敬高 永島 貫太  
吉留 敬高 中森 宜夫  
坂 真太郎 中所 啓吾  
佐久間二郎 鈴木 啓吾

【休憩 十五分】

狂言 賞 賀

親 野村 万作

妻 夫 高野 和恵  
内藤 連

仕舞

道明寺 中所 宜夫  
松 虫 キリ 鈴木 啓吾  
楊貴妃 津村禮次郎  
女郎花 観世 喜正

地謡

河井 美紀  
坂 真太郎  
中森 貫太  
中森健之介

【休憩 十分】

能  
神巫 龍 田 新井麻衣子  
龍田姫神

旅僧 森 常好

大鼓 佃 均  
小鼓 幸 藤田 次郎

從僧 館田 善博

僧 森 常太郎

里人 深田 博治

後見 永島 充  
中所 宜夫

地謡 菅野 貞男 杉澤 陽子  
坂 真太郎 中森 貫太  
佐久間二郎 観世 喜正  
鈴木 啓吾 奥川 恒治

附祝言

【終了予定 午後四時半頃】

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。  
演能や他のお客様の迷惑となる行為は、遠慮願います。場内によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

2017.9.17 [日] PMI:00 (開場 12:00)

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎4-6-9 TEL 03-3491-8813

JR、東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩7分。  
香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※駐車場がございませんので、お車での来場はご遠慮下さい。



●入場料  
会員券(年4回)……一般 20,000円 学生 10,000円  
1回券(当日券)……一般 6,000円 学生 3,000円

●申込先：各出演能楽師または緑泉会まで  
桑田 貴志 TEL・FAX 03-3643-0891  
新井麻衣子 TEL・FAX 042-946-8389

〒184-0005 東京都小金井市桜町2-7-18  
緑泉会 tel. 042-386-2131 fax. 042-386-2132

能——橋辨慶(はしけんけい)

比叡山の僧、武藏坊弁慶(シテ)は、祈願のため五条の天神を参詣しようと思つていたところ、從者(下キ)から、五条の橋に化け物のような人斬りが出るので、止めるよう進言される。いったんは思いとどまつた弁慶だが、怖気づいたと思われてはならないと、怪しい人斬りを退治することを決意し、夜になるのを待つ。

牛若丸(子方)は、母の命により明日からは鞍馬山へ上ることとなつていたので、今夜を名残り五条橋へ行き、通る人を守つて待っている。弁慶が五条の橋へ行くと、牛若丸が衣を引き被いて待ち構えている。女と見てやり過(そう)とする弁慶をからかつてやろうと、牛若丸が斬りかかり、弁慶は長刀で応戦するが、身軽な牛若丸に翻弄される。ついに降参した弁慶が何者かを尋ねると、牛若丸は自身の身分を明かし、二人は主従の契りを結び、共に九条の御所へと帰る。

一般的には、牛若丸と弁慶が五条橋で出会う物語で、人を斬りつけていたのは千本の太刀を奪う悲願を立てた弁慶であるが、能では、橋の上で人を斬つていたのは牛若丸となつている。子方として登場する牛若丸が活躍する一曲である。

狂言——賞 賀(もろいせ)

酔つた勢いで妻を追い出してしまった男。実家に帰つてしまった妻を、翌朝舅のもとに迎えに行く。娘を不憫に思う舅は婿をつっぱねるが、子供が恋しがつているからと尚も頼むと、妻が現れて……。舅と婿の押問答の末やいかに。

仕舞

道明寺(どうみょうじ)：土師寺を訪れた僧尊性のもとに、天女に続き白大夫(しらたゆう)の神も現われ、笏拍子をとつて舞楽を奏でた後、木樹樹(もくじゅじゅ)の実を振り落して与え、尊性の夢は覚める。

松虫(まつむし)：回向の声にひかれて現れた男の亡霊。秋野にすだく虫の音に興じて舞を舞う。明友、その姿はほのかに消え、あとには茫々たる草原に虫の音だけが残つていた。

楊貴妃(ようきい)：もともと天上界の仙女であつた楊貴妃は、仮に人間の世界に生まれ、皇帝の寵愛を受けたが、七夕の誓いの言葉もむなしく、今、会者定離の定めのままにある身の上を語り舞う。

女郎花(おんなめし)：夫の心を疑つて身を投げた妻を哀れみ、同じく川に身を投げた頼風。妻の亡骸を埋めたところが男塚であると物語り、今は共に邪淫の悪鬼に責められている様を見せ、僧に成仏を願う。

能——龍 田(たつた)

六十余州に納経する為に旅をしている僧(うき)が、大和の龍田明神参詣に龍田川を渡ろうとしていた。そこへ一人の巫女(前シ)が現れ、「龍田川紅葉乱れて流るめり 渡らば錦中や絶えなん」や、藤原家隆の歌「龍田川紅葉を閉づる薄氷 渡らばそれも中や絶えなん」を引いて僧を止め、心なく渡れば神と人との中が絶えるだろうと戒め、自ら社殿へ案内する。霜降月(十一月)の冬枯れの景色の中にありながら、今まさに盛りの一木の紅葉。これが御神木であることを教え宮巡りするうち、自分は龍田姫であると語り、社壇の扉を押し開き御殿の中に入つていく。(中)

僧が神前で夜を過ごしていると、龍田姫(後シ)が現れ、龍田明神の縁起を語り、紅葉の美しさを愛でて神楽を舞う。やがて龍田山から神風松風が吹き乱れ、時雨に紅葉が散り舞う中、女神は衣を翻して天に昇っていく。

薄氷の張る季節を背景に、紅葉の鮮やかな美しさと、女神の舞う神楽の清浄さを主眼とした能。

●平成29年 第4回例会……………12月2日(土)

能……葛城 大和舞……………墨 敬子  
能……船辨慶 前後之春……………津村禮次郎